

世界自然遺産登録の意義と地域社会の役割

～各地の経験からわかったこと～

平成

27年9月6日(日)

午後2時から4時

伊仙町ほーらい館癒ていなホール



元 環境省自然環境局長

鹿児島大学特任教授 星野 一昭 (ほしのかずあき)

平成9年から3年間は鹿児島県の自然保護担当課長として世界自然遺産となった屋久島の山岳地域の保全や世界自然遺産に関するアジアサミットの開催を担当。知床が世界自然遺産に登録される前後2年間は釧路自然環境事務所長として漁民など地元住民との調整責任者の役割を果たした。

本省野生生物課長としてトキの野生復帰など希少野生生物の保護を担当した後、小笠原諸島の世界自然遺産登録には環境省担当課長として関わった。奄美琉球地域の世界自然遺産登録を目指す環境省の実務責任者である自然環境局長を最後に平成26年7月に退職。

本年4月から鹿児島環境学を担当する特任教授として鹿児島大学で勤務。

奄美・琉球を世界自然遺産へ！

【講演要旨】

徳之島の国立公園指定が目前に迫り、世界自然遺産への登録に近い将来となった今、世界自然遺産登録の意義と地域社会の役割について改めて考えてみましょう。

世界自然遺産は、国際条約の厳格な基準に基づいて、人類の遺産であると認定された自然地域です。条約ですから、各国政府に遺産地域を保護する義務があります。屋久島も知床も小笠原も遺産地域は国立公園として国が開発行為を規制しています（白神山地は別の制度で開発規制がなされています）。手つかずの自然をそのままにしておけばよい地域であれば、これですべては解決します。しかし、日本の手つかずの自然地域は限られています。多くの自然は人との関わりの中で現在の状態にあるのです。これが日本の自然の特徴であり、保護や管理が難しい点でもあります。人が持ち込んだ生物が世界遺産の価値を有する野生動植物の存続を脅かす事態が小笠原で起こっています。知床では人の影響で増えたシカによる悪影響が生じているため、遺産地域であるにもかかわらず、シカの駆除が行われています。屋久島では、サルによる悪影響が遺産地域で問題になっています。

世界自然遺産の登録や登録後の管理に関わった経験から、屋久島でも知床でも小笠原でも登録や登録後の管理に果たす地域社会の役割が大きくなっていることを実感しています。2012年に40周年を迎えた世界遺産条約のテーマは「世界遺産と持続可能な開発：地域社会の役割」でした。これは世界自然遺産に登録されている世界の197地域で地域社会が果たす役割が極めて大きいことを示しています。

徳之島ではアマミノクロウサギが世界遺産の価値を左右する重要な野生動物です。徳之島が有する世界自然遺産の価値を損なわないように、地域の豊かな暮らしと世界自然遺産登録を両立させる知恵が必要です。

世界自然遺産に登録されることが地域の豊かな暮らしにつながり、地域の暮らしが世界自然遺産の価値を支える。そうした関係が築かれてはじめて、将来にわたって徳之島の自然が人類共通の遺産として守られることになるのです。

屋久島では、自然の再生力の範囲内で屋久杉の切り出しが行われ特有の生態系が維持されてきました。知床では漁業者による自主規制が豊かな知床の海を守り、結果的に貴重な森林生態系の保護に貢献してきました。小笠原では漁業者の理解を得てクジラの繁殖海域になっている5km沖合まで世界自然遺産地域に登録されました。いずれの地域も様々な課題を抱えていますが、地域社会の理解と協力が登録を実現させた原動力であり、登録後の遺産地域管理に不可欠なものとなっています。

本日の講演会が、徳之島の住民の皆様にとって、世界自然遺産登録と地域の暮らしのかかわりについて改めて考えるきっかけとなり、近い将来に迫った登録の実現に向けて地域の皆様の豊かな暮らしにつながる取組みが促進されることを願います。



アマミノクロウサギ



闘牛のさんぽ



海岸ゴミ拾い



オビトカゲモドキ

【主催】徳之島地区自然保護協議会 【後援】徳之島経済同志会

【お問い合わせ】

徳之島地区自然保護協議会事務局

徳之島町役場 企画課 TEL:0997-82-1111 FAX:0997-82-1101

天城町役場 企画課 TEL:0997-85-5164 FAX:0997-85-3110

伊仙町役場 企画課 TEL:0997-86-3111 FAX:0997-86-2301



表紙：鈴木章